

ヒヤリ・ハット事例

一般社団法人千葉県産業廃棄物協会

27.11.13までの回答分

外注作業その他

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
1	鋸南町勝山地先	帰宅途中	片側一車線の道路(歩道無し)で自転車に乗った老人(男性)が、無灯火で右側の道路(幅員3.5m位)より、一時停止もせず道路を横断して来た為、警笛を鳴らし緊急停止した。 老人は右に曲がり、倒れもせず、怪我もなく無事であった。 お墓が近くにあり、その帰りだったらしい。 なお、自車のヘッドライトは点灯していた。	ゆるいS字カーブで、法定速度は30km/hだったが、自車は45km/h位のスピードが出ていたと思う。 右側からの自転車、歩行者等にも注意し、さらにスピードは控え目に、安全運転を心掛けようと再認識した。	○	○			
2	市原市海士有木(R297号線)地先	乗用車運転中	71歳になります。 毎日ハンドルを握っており、マンネリ化していた。 自分は何年も無事故運転していたので、絶対大丈夫と思いつつ考え事をしていて、交差点に赤で進入してしまった。 間一髪セーフだったが、背筋が寒くなった。	自分の年齢をもう一度再認識し、一心不乱、前方直視で運転し、ハンドルを握ったら考え事は絶対しないよう心掛ける！	○				
3	ガソリンスタンド店舗内	分離槽清掃作業時	洗車機下の側溝グレーティング作業時、苔が生えていた為、足を滑らせ転倒し、転落しそうになった。	冬場の凍結時以外にも、夏場の苔やヌメリによる足場環境の悪化を認識し、作業時は歩幅を小さくする。 万一滑った時も掴まる所を確保する。			○		
4	工場入口道路にて	出勤時に車で通行しようとした際に	工場内が大雨により道路が冠水していた。 思っていた以上に冠水しており、車を停止させバックし、車への浸水はなかった	集中豪雨時等は、道路の冠水にも注意し、大きな水溜りには車で進入しないように心がける。			○		

収集運搬

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
1	南房総市市部(岩井)R127	4tダンプにて残土を運搬中	自転車に乗った高校生が突然、かなりのスピードで右側より横断してきた(無灯火)。急ブレーキを踏んで左にハンドルを切った。運よく左側は駐車場であった為、回避できた。むろん、自分のライトは点灯していた。(下向き)	左側だけでなく、右側からの飛び出しにも注意が必要と思った。ライトはなるべく上向きにして走行することにした。(対向車が来る時は下向き)		○			
2	船橋市双子町付近	次の回収先に移動中	道幅が同じくらいの信号なしの交差点で、相手方に一時停止あり、当方直進優先だったが、相手方が停止せず、衝突しそうになった。	常日頃から危険な交差点であり、運転手にはヒヤリハット地点など、ドライブレコーダーのハザードマップによる音声ガイドにより周知させる。安全教育にも事例として伝えるなど。		○			
3	役所施設の積み込み場所	コンテナ交換で空きコンテナを設置する際	風雨が強くコンテナの横に立ってかけられていたベニヤ板が倒れてきて、体に接触しそうになった。	顧客先の施設であっても、危険と思われる個所については改善の要望を行う事により、安全な作業環境を確保する必要がある。			○		
4	京葉道路篠崎付近	走行中	三車線の中央車線を走行していたところ、前方の左側車線を走行していたユニック車に積載していた廃木材の一部が落下し、その後方を走行していた車両が急ハンドルで中央レーンに寄ってきたため、急ブレーキで回避した。	前方の走行車両とは、絶えず一定の車間距離を確保して走行し、前方車両が不安全な状態となっても、接触を回避できる速度と車間距離維持して走行する。		○			
5	湾岸道路千鳥町付近	走行中	湾岸道路の千鳥町インターに入るため、インター入口のラインを走行していたところ、いきなり中央ラインを走行していた車両が、ウインカーも出さずに、進入してきたので、急減速して接触を回避する事となった。	ゆとりを持った運転を心がけ、前方の車両だけではなく、並走している車両についても、できるだけ動向を確認して走行する事により接触を回避できる運転を行う。		○			
6	一般収集時	車両運転中	雨天の左折時に、自転車の接近に気づかずヒヤッとした。	天候に関係なく左折時は安全を確認し、一時停止を心掛ける。助手席には不必要なものは載せず、視界を確保する。→視界の確保優先!	○		○		
7	一般収集時	車両運転中	トラック走行中、前方の車が急ブレーキをしたため、こちらも急ブレーキで停止した。	トラック走行中、前方の車と十分に車間距離を取り、スピードを出さず、いつでも停車できるようにする。	○	○			
8	一般収集時	車両運転中	トヨタUcarセンターにごみ収集のため進入しようとしたところ、入口付近駐車場に止まっていた車が発進しようとして、少し動いた。	一般道だけでなく、施設等からの出入庫の際も周りをよく見て、注意して運行する。また、施設内及び出入庫の際には、場内ルールの有無にかかわらず、徐行運転をする。→産廃車、一般車を問わず、最徐行運転で!			○		
9	作業現場	荷台のシートを掛ける時	シートが突風に煽られた。	風が来ないような所などで、気を付けて作業する。			○		
10	成田インターチェンジ上り方面料金所入口	料金所ETCレーンに入ろうとしたとき	一般レーンに進んでいた車が突然ETCレーンに入ろうと自車の前に入ってきて、衝突しそうになった。	料金所手間ではETCレーン・一般レーンで迷う車があるので、常に「~かもしれない」運転を心がけるようにする。		○			

11	南房総市市部地先	大谷石(基礎石250×250×600)を4tダンプにて処理場へ運搬中	S字のカーブで対向車(乗用車)がセンターラインに寄って来たので、警笛を鳴らして急ブレーキを踏み、なんとか避けることができた(自車50km/h位)。対向車は左にハンドルを切った為、そのまま田面を10m位走って止まった。さいわいケガもなかったが、ナビを見ていたらしい。	S字のカーブでの走行は減速して走ること。過積載(3.74t)をしていたら止まれなかったと思った。今後、過積載には十分注意が必要な旨、各ドライバー・オペレーターに通達した。						○				
----	----------	------------------------------------	--	---	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--

中間処理

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
1	自社処理工場内	コンテナを清掃中	コンテナの上に乗って清掃をしていた際、足をすべらせて落下しそうになった。	・コンテナ上での作業は極力避ける。 ・安全带等をして落下防止に努める。	○				
2	中間処理場	タイヤショベル後退時	作業員が後ろにいることに気づかず後退し、轢きそうになった。	・作業員はタイヤショベルのオペレーターから見えないところに立ち入らない。 ・タイヤショベルオペレーターは後方を充分確認してから後退する。	○	○			○
3	脱水ケーキ搬出場	脱水ケーキの積込時	水受け金具が落下してきた。	定期的な点検を実施し、固定金具のゆるみをなくす。				○	
4	投入槽開口部	搬入物の確認をしていたとき	汚泥の油分がグレーチングに付着しており、足が滑り転倒しそうになった。	油分が付着している時は、乗る前に清掃をする。			○		
5	プラント内	配管の詰まり除去作業中	配管内の汚泥を抜く作業を行っていたが、一部で汚泥が抜けきっていなかった。そのため、配管のボルトを外している時、汚泥が噴出し顔付近にかかった。	配管内の汚泥を抜く箇所を増やす。ボルトを外す時は、汚泥があると想定し、少しずつゆるめる。	○		○		
6	ボイラー室	油焼きボイラーのブロー時	ボイラーの圧力が上昇し、蒸気弁を開けるときに、圧力計の後方配管に右手首が触れてやけどをした。長袖で手首は隠れていたが、瞬間的に手首が露出してしまった。	高温部分を分かり易く表示する。体のサイズに合った作業着を着用する。	○				
7	場内G2ピット	ユンボに付けたアタッチメント(トロンメルバケット)で汚泥からガラを取り除いている時	ユンボの手を伸ばし汚泥をすくう時、遠くの汚泥をすくおうとしたため、アタッチメントの重さ+汚泥の重さで、車体がバランスを崩し、Gピット側へ傾きヒヤリとした。	ユンボの手を伸ばし遠くの汚泥を取ろうとしたことからバランスを崩したので、遠い汚泥は他の大型重機で近くに移動させ、作業を行うこととした。	○				
8	場内Jピット前	フォークリフトでフレコンの移動作業をしている時	フレコンの紐が切れて落下。フレコンを吊った時に落下したかもしれないと思いヒヤリとした。	排出業者が1t用フレコンに1tを超える汚泥を入れて持ってきていた。排出業者へは1tを超えてフレコンへ汚泥を入れないう、お願いした。 場内でフレコンを移動処理する時は、必要以上にフレコンを高く持ち上げないように徹底することにした。	○				
9	工場内	発電設備下のピット内の残量を確認している時	蓋を開けた際、中に蓋を落としそうになった。	蓋が大きく重い為、中を確認できる小窓を蓋に取り付ける。さらに蓋の裏側にずれ落ち防止の溝を付ける。				○	

10	保管庫付近	フォークリフトを運転し、No.2フィルタープレスのフレコンバック交換作業に向って前進移動中に	容りを投入する別のフォークリフトが後方を見ずにバックしてきたため、誘導員は「止まれ」と言って静止したが、気づかず当方のフォークリフトにぶつかりそうになったため、停止して事故を防いだ。	フォークリフトでバックする際は、基本通り、必ず後方を目視確認してからバックする。 誘導員がフォークリフト運転手に分かるような位置で誘導する。		○				
11	バイオガスセンター構内道路	亜鉛汚泥のフレコンバックをフォークリフトに吊り、前進していたところ	路面が隆起したところを走行し、フォークリフトが大きく揺れて、フレコンバックを落としそうになった。	路面補修依頼を提出。 27年度に補修完了。						○

中間処理

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
12	2号炉高温反応炉Rバーナ床にて	バーナ冷却水のホース接続不良を確認し、冷却水を通したままホース接続不良を修正しようと、接続カプラーに触れたところ	ホースが外れ、冷却水(35℃)を胸部から下肢に被液した。	カプラーを外れないようインシュロック等で固定する。 操業中、バーナ冷却水は長時間止めることが出来ないが、わずかな時間であれば停止可能であるため、一時的に冷却水バルブを閉めて接続不良修正を実施する。ただし長時間になると水が蒸気になって危険となるため防災面装着する。	○			○	
13	保管庫西側入り口にて	冷却塔の環水メーターを確認しに行く途中	フォークリフトが2台駐車しており、通路が狭く暗い場所の保管庫西側入口の段差に躓き転倒しそうになった。	足元を注意して歩行する。 段差をなくす。 通路に重機等を置きふさがない。			○	○	
14	2号スラグ振動コンベアについて	スラグが流れてくる3-1コンベア上の網に乗っている中塊スラグを、小ハンマーで叩き砕いて細かくしているとき	網の鉄枠に手をぶつけ、ケガしそうになった。	手元に注意してハンマーを使用する。 棒が長めのハンマーを購入し使用する。 鉄枠を黄色で塗装し注意喚起表示をする。	○				
15	バイオガスセンター保管庫の道路上にて	フォークリフトでフレコンバックを吊って、前進走行運搬中に	フォークリフトのマストをあまり倒していなかったため、道路の凹凸でフォークリフトが大きく揺れて、フレコンバックが外れて落ちてしまった。	平成27年度、道路の凹凸補修完了。 フォークリフト走行時はスピードを出さず徐行運転を行う。 マストは確実に手前に倒し、安定走行する。	○			○	
16	スラグ棟昇降階段にて	磨砕機の点検時にスラグ棟昇降中、1段飛ばしで昇降していたところ	階段を踏み外し、転倒転落しそうになった。 (階段は一部塗装中だったため、1段飛ばしで昇降してしまった)。	階段塗装は段の半分を塗装するなどし、通行出来るように工夫する。 1段飛ばしで昇降しない。 手摺りをしっかり握って昇降する。	○		○		
17	排水処理室北側の倉庫前にて	排水処理で使用するポリマーを作製するため、ポリマー容器から計量カップに液を移す際に	容器のキャップが開いているのに気づき、液を被液しなかった。 通常は容器を振ってから計量カップに移していた。	薬液関係の容器の蓋は、必ず閉めるよう周知した。 使用前の容器点検も必ず実施する。			○		
18	地下で	No.5コンベア下部の落鉱スラグを清掃しようと歩行中に	No.8コンベアのカバーの角に右足をぶつけた。	足元に注意して歩行する。 角等にはトラテープ等を貼り、注意喚起表示をする。	○				

19	新ガス精製棟にて	点検パトロール時に	蒸気バルブのフランジより高温蒸気が漏れており、身体に蒸気が触れ、火傷しそうになった。 (作業着に当たり火傷はなかった。)	高温蒸気注意の表示と通行禁止の表示をおこなった。 5/7バルブおよび配管修理完了で蒸気漏れはなくなった。				○	○	
20	1号炉水砕ストレーナオートストレーナ回収バケツにて	回収バケツ内を清掃しようと、蓋を開けた際に	大量の蒸気が出て、目の前が見えなくなり転倒しそうになった。 (送風機が別の方向に向いていた。)	作業の前には送風機の方向を確認し、身体の後方より送風機の風が当たるよう位置調整を行い作業をする。				○		
21	No.2フィルタープレス下にて	点検のため歩行中	上部より水が垂れてきて身体に浴びた。 (上部機器のホースが外れており、洗浄水が身体にかかった。)	洗浄用ホースのカプラーが外れていたため、今後はホースカプラーをインシュロックで固定し、外れないようにする。					○	

中間処理

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
22	熱交換器Bで	バルブを開にしようと回した際に	バルブが固くて開にならず、無理をして腕を痛めた。	人力で動かない場合は、無理をせず、工具を使用する。	○				
23	駒岡現場	破碎作業中	二軸破碎機の刃の隙間に廃棄物がつまり、破碎機の下から引っ張り出そうとしてPPバンドが手からみ、巻き込まれそうになった。	機械を必ず停止し、下から引っ張り出すのではなく、投入口から取り除く。 作業員2人以上で行動、作業する。	○				
24	駒岡現場	点検作業中	作業員がコンペアー先端部を点検していたところ、他の作業員がコンペアーの操作スイッチを間違えて押したため、突然動きだし、手や足を巻き込まれそうになった。	作業員どうし、機械操作を確認し、確実に覚えること。 機械を動かす時は、作業員がいなか目視、声をかけ、動かす。 スイッチパネルに注意、確認事項を表示する。 重大事故の原因に注意喚起の徹底!	○	○			
25	鶴見現場	重機操作中	タイヤシャベルにてバックする際、安全確認後、ギヤを入れて再度確認したところ、作業員が真後ろを横切りヒヤツとした。	作業員は稼働中の重機後方を通らないことを徹底し、オペレータは作業をする時は、付近の作業員に声をかけ、合図をしてから操作する。		○			○
26	鶴見現場	重機操作中	廃棄物が入ったフレコンをユンボ等で吊り上げ作業中、繊維ベルトの片方が劣化していたため切断し、フレコンが落下しそうになった。	詰め込み作業前にはフレコンが劣化していないかを確認する。 劣化しているフレコンは廃棄し、重量物を入れ過ぎない。			○		○
27	鶴見現場	荷降ろし作業中	荷降ろし作業後、トラックの荷台を清掃中、トラックが急に動いたため、荷台上で転倒しそうになった。	清掃等で荷台に乗る時は、誘導員に清掃終了後までトラックを動かさないように指示し、清掃終了後、誘導員に合図をしてトラックを動かしてもらう。	○				
28	戸塚現場	選別中	石膏ボードや塩ビクロスなどを入れているフレコンの紐に足を引っ掛け転んだ。	フレコンの紐を上部で束ねておく。 フレコンの近くを歩く際には、足元の安全を確認する。	○		○		
29	戸塚現場	重機操作中	ユンボで大型トラックにガラを積込み中、積込旋回方向のトラックの陰からフォークリフトが進入し、旋回を急停止したところ、バケツからガラがこぼれ、フォークリフトに当たりそうになった。	フォークリフトや作業員は積込み中のユンボの近くを通過する際にはオペレータに手で合図をし、オペレータが確認後、積込み作業を停止してから通過する。		○			○

30	戸塚現場	重機破碎作業中	ユンボで破碎作業中、厚めの塩ビパイプを破碎したところ、弾け飛び、場外まで飛散してしまった。	必ずシートなどを被せて破碎するよう、今一度徹底を！ 塩ビパイプはリサイクルにする選別を心掛ける。						○
31	戸塚現場	重機操作中	ミニユンボのはさみで畳10枚くらいをつかんで移動中、数枚の畳が滑り落ち、近くの作業員に当たりそうになった。	作業員は機械との距離を取る。 はさむ枚数を減らす。 ミニユンボではなく、フォークリフトで運ぶ。						○
32	自社工場内	供給クレーン運転時	搬入者(運転手)とインターホンにて、投入時連絡を交わしたのち、クレーンオペレーターは搬入をしないと受取り、ごみ移動のためクレーンを降下させようとした瞬間、トラックがバック音がしたので即停止したが、そのまま降下していたらと思うと、ヒヤリとした。	連絡の際、大きなはっきりとした声で搬入者へ指示する。 聞き逃した場合、だろろ運転をせずに、連絡時に再度聞き直す。	○	○				○